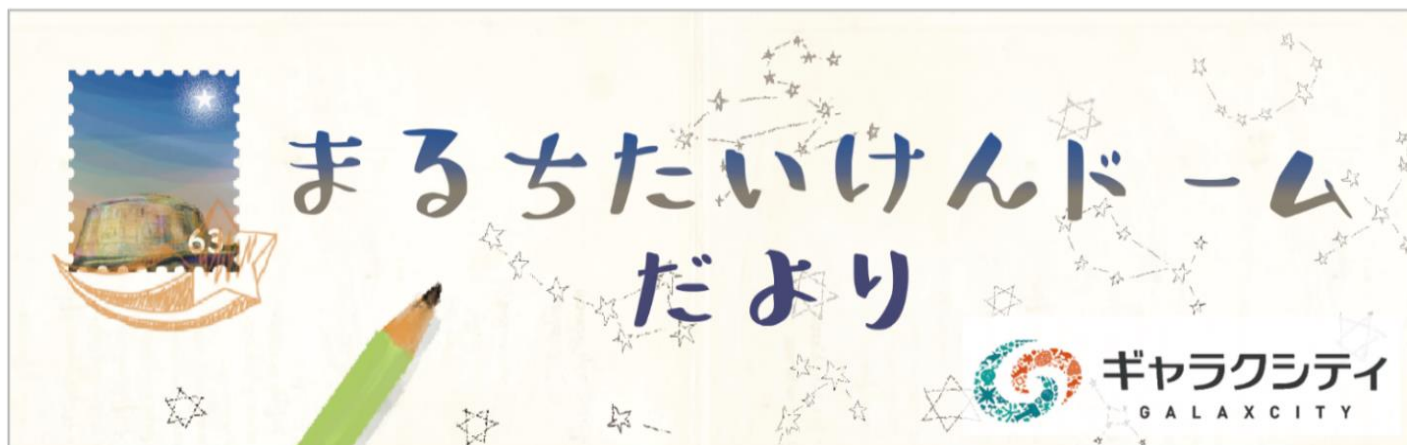
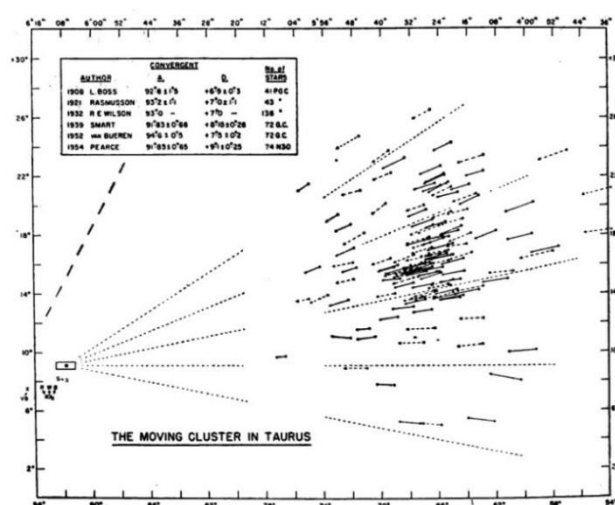




## せいだん ヒアデス星団

おうし座には冬の夜空を飾る2つの星団があります。1つは日本でも「すばる」として親しまれるプレアデス星団です。もう1つは、おうしの赤い目玉の星アルデバラン( $\alpha$  Tau)の周りにVの字の形に星が並んだ「ヒアデス星団」です。日本では、Vの字がお寺にある釣鐘のようだというので、「つりがね星」と呼ばれていました。「すばる」のように星が密集していないので、彗星と見誤ることもあります。よって星雲・星団に付けられるM番号も付いていません。しかし、これは本当に星団なのでしょうか？ただ偶然同じ方向に星がたくさん見えるだけなのでしょうか？



ヒアデス星団の動き L'Astronomie

20世紀に入った頃から星までの距離や年齢、空間での運動が詳しく調べられるようになると、ヒアデス星団の星たちは、距離150光年、年齢は約8億歳、驚いたことにほとんどの星が整然と同じ方向（いっかくじゅう座イプシロン星付近）に移動していることが分かりました。一番明るいアルデバランは距離が68光年ですので、偶然同じ方向に見えているだけです。ヒアデス星団の星たちは、同じ星雲の中でほぼ同時に生まれ、その星雲がもともと持っていた運動量（移動の方向とスピード）を保っていたのです。このことに初めて気が付いたのは、フローニンゲン（オランダ）天文台で星の運動を観測・研究していたヴィアスマ（H.A. Weersma）です。このような星団を散開星団と言いますが、かに座の散開星団「プレセペ星団」やかみのけ座の散開星団（Mel. 111）なども同じような動きをしています。そのためこの3つの星団は「同じ星雲から生まれてきた兄弟の星団」である可能性が指摘されています。本当のことはまだ分っていません。真実を明らかにするのは、将来のあなたかも知れません。